

第 61 回 読報研究会 レジューメ

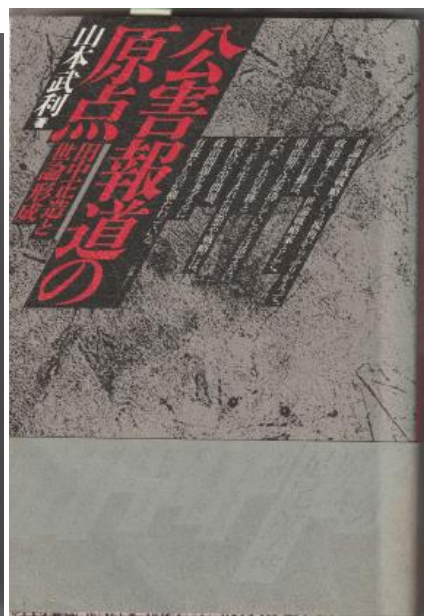
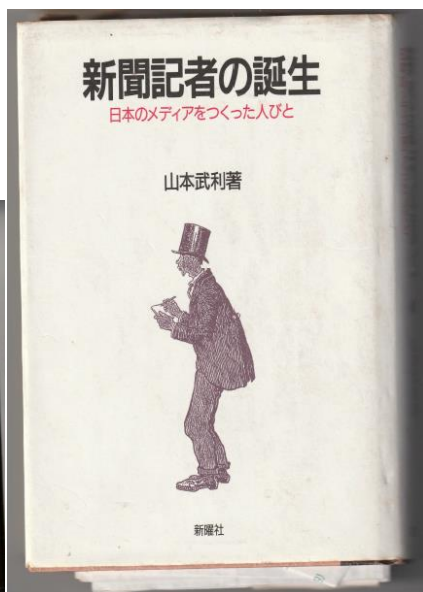
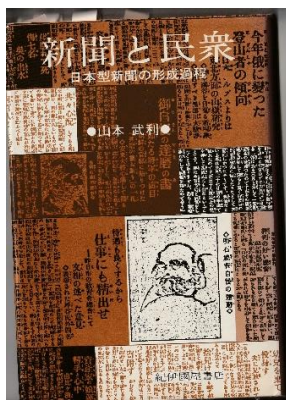
近代日本のメディア・宣伝・インテリジェンス

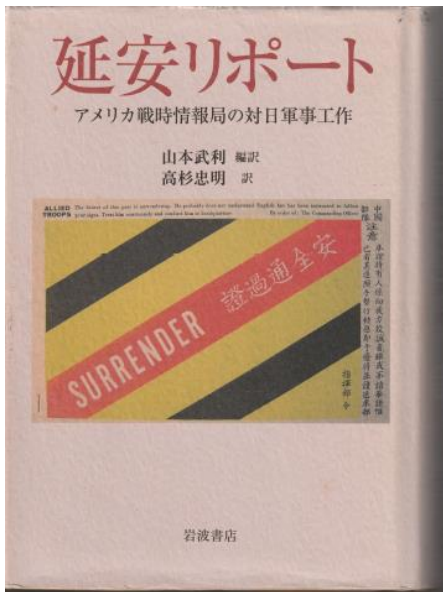
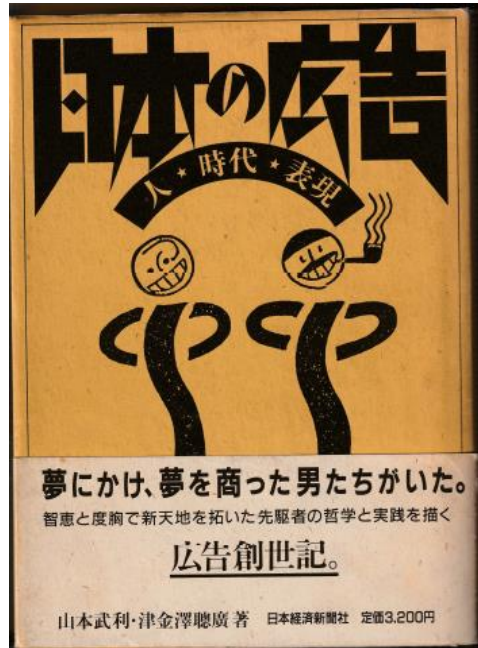
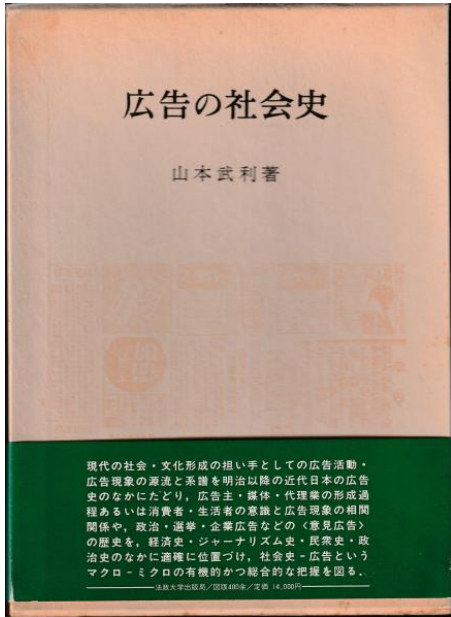
ー山本武利のコミュニケーション史研究総括

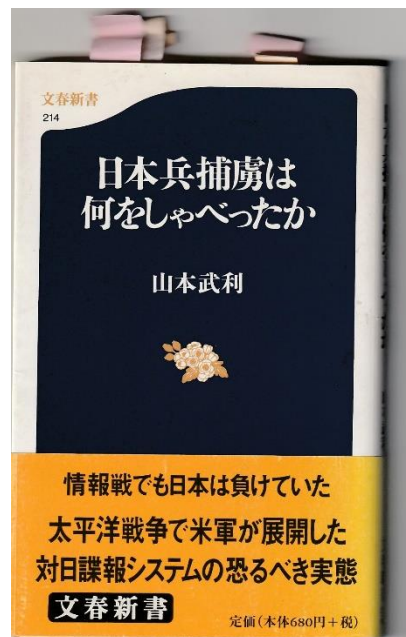
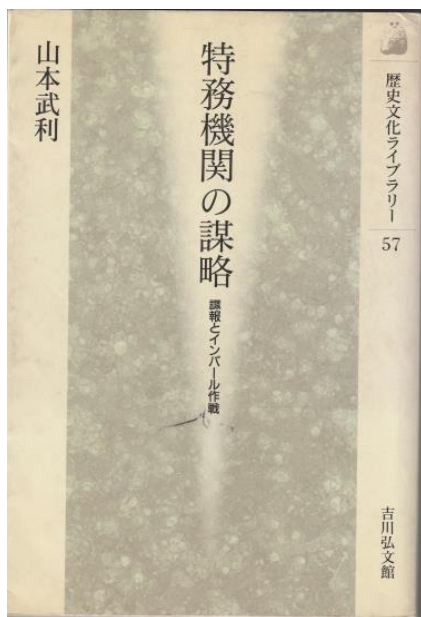
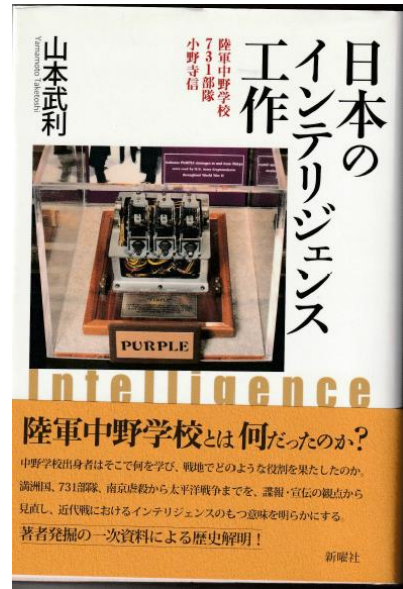
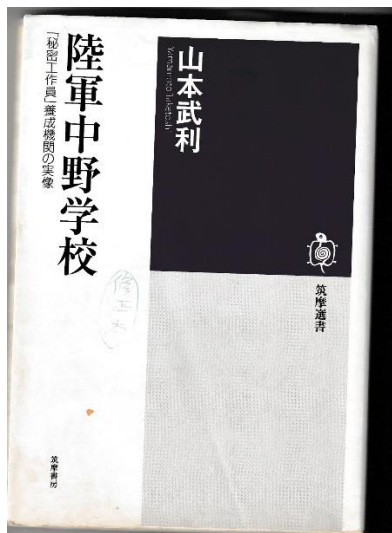
2024 年 10 月 12 日

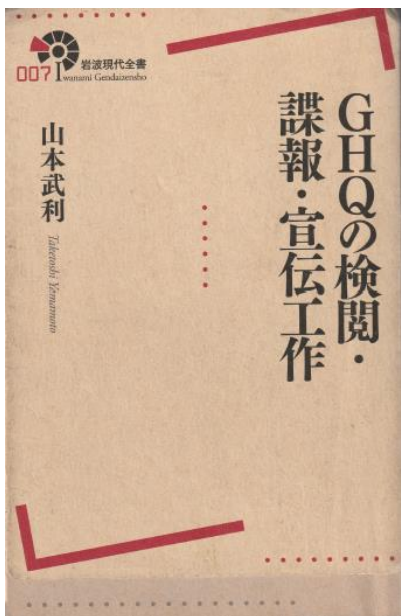
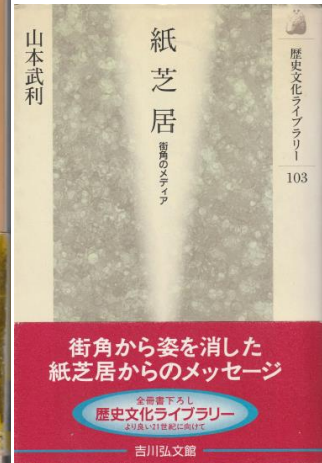
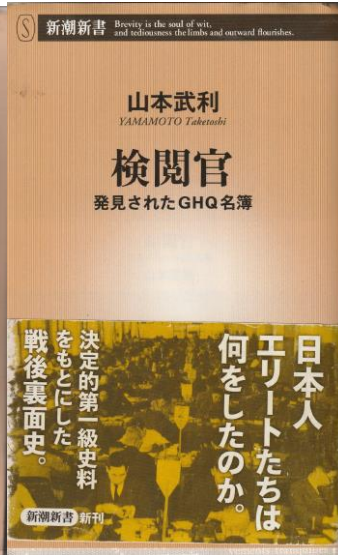
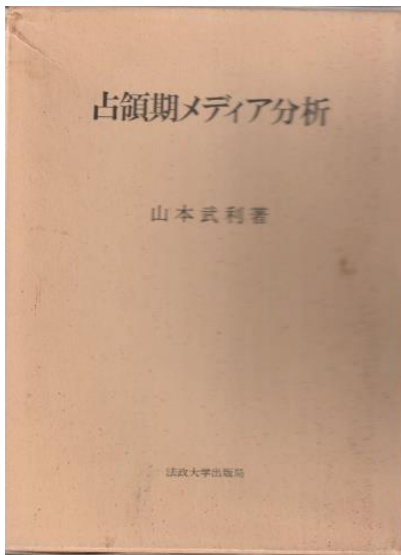
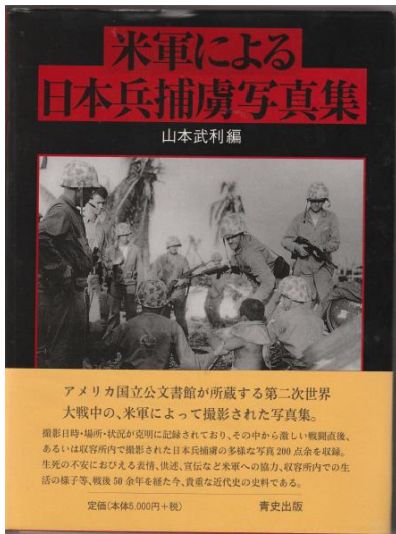
総括のポイント

- 1, 近代コミュニケーション史を民衆的基軸から見直す
- 2, 民衆は国家の統制、プロパガンダ攻勢にどう対応したのか
- 3, 国民の生活にどのような消費革命がもたらされたのか
- 4, 国民は国家のミリタリズムにどのように巻き込まれたのか
- 5, 国際的なコミュニケーション工作が日本人にどう影響したのか









I コミュニケーション革命の急展開

新聞と民衆 (1973, 紀伊國屋書店)、新聞記者の誕生 (1990, 新曜社)、公害報道の原点 (1986, 御茶の水書房)、近代日本の新聞読者層 (1981, 法政大学出版局)

- 1, 遊行者の往来交通
- 2, 大新聞・小新聞
- 3, 民権・御用新聞
- 4, 不偏不党、独立新聞
- 5, 投書・解話会・政治結社
- 6, 記者クラブ
- 7, 足尾鉍毒問題

II 消費革命が担った生活近代化

広告の社会史 (1984, 法政大学出版局)、日本の広告 (1986, 日本経済出版社、共著)

- 1, 文明開化—消費革命の起点
- 2, 広告媒体
- 3, 広告代理店、広告主
- 4, 民衆生活
- 5, 広告利用
- 6, 政治広告
- 7, 中国・韓国のケース

III 中国大陸圏の日米中のインテリジェンス工作

延安リポート (2006, 岩波書店、編共訳)、朝日新聞の中国侵略 (2011, 文藝春秋)

1, 上海

- A 支那派遣軍、特務機関
- B 朝日新聞、大陸新報
- C 中国でのラジオ受信状況調査

2, 延安

- A 中国共産党、毛沢東
- B 日本軍捕虜教育とテキスト
- C 野坂参三
- D アメリカ軍・延安リポート、デキシーミッション

IV 大東亜共栄圏を狙うインテリジェンス専門機関

*陸軍中野学校 (2017, 筑摩選書)、日本のインテリジェンス
工作 (2016, 新曜社)、特務機関の謀略 (吉川弘文館)*

- 1, 満州、関東軍、土肥原賢二
- 2, シベリア
- 3, ハルピン特務機関、731部隊
- 4, 南洋、光機関、岩畔豪雄
- 5, 陸軍中野学校
 - A 秋草俊
 - B 天皇への批判と天皇からの叱責
 - C 中国人女性スパイ
 - D シベリア抑留
- 6, 陸軍参謀本部
- 7, イデオロギー徳富蘇峰の夢想

V 戦時下アメリカ軍のコミュニケーション工作

日本兵捕虜は何をしやべったか (2001, 文春新書)

*米軍による日本兵捕虜写真集 (2001, 青史出版)、ブラック・プロパガンダ
(2002, 岩波書店)*

- 1, 日系アメリカ人、日本兵捕虜の活用
- 2, 傍受・発信によるラジオフル活用—FBISの東京ローズ分析
- 3, ブラック・プロパガンダ サイパン・中国戦線
- 4, IBMの日本側利用状況調査
- 5, 外国新聞のインテリジェンス的分析法
- 6, ライシャワーの戦時下工作案
- 7, S S Uの日本占領直後での秘密諜報工作計画案

VI 検閲下日本のコミュニケーション・メディア

*占領期メディア分析 (1996, 法政大学出版局)、検閲官
(2001, 新潮新書)、紙芝居 (2000, 吉川弘文館)、GHQの
検閲・諜報・宣伝工作 (2013, 岩波書店)*

A メディア

- 1, 新聞
 - A 読売争議
 - B 朝日新聞の「社内革命」

- C CIIE の日本新聞分析
- 2, 同盟通信社の解体と共同・時事通信社の発足
- 3, 出版社
 - A, 講談社の戦争責任処理
 - B CIE の日本雑誌分析
 - C 出版物没収と図書館
 - D 紙芝居人気への注目
- 4, 放送
 - A NHK、民放競合体制への歩み
 - B, モスクワ放送のプロパガンダ
 - C、ラジオプレスの活況

B 検閲

- 5, 民主化と発行禁止
プレスコード
 - A 事前検閲
 - B 事後検閲
 - C CCDとCIEの確執
 - D 戦勝直後からのCIAの日本浸透工作
- 6, 日本人の検閲対応
 - A 徳富蘇峰
 - B 永井荷風
 - C 木下順二
 - D CCD廃止とプランゲ文庫誕生

VII コミュニケーション史の方法的総括

約 20 冊の既刊著作(旧作)のうち 60 年間の風雪に耐えかねる箇所を可及的に削除する一方、現代的に意味あると思うものを残す。7つのアイテム毎に著作や論文・レポートを有機的に再編成。スペースの許す範囲で関連資料、分析結果の新規投入、記述更新に務める。

- 1, 業績一覧
- 2, 総索引